

様式 1

研究報告書（平成 26 年度）

提出者 辻本 登志子

提出年月日 2015 年 3 月 31 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 アジア社会の親密圏と、フィリピン人移住労働者のライフコースの接合に関する研究

英文 A Study of the Intersection of the Life courses of Migrant Filipino Workers and the Intimate Spheres in Asia

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

近年、アジア先進国における少子高齢化現象が深刻なものとして認識されるに伴い、従来の家族や親密圏にも変化が生じている。特に、日本や韓国のように移民の受け入れに積極的でなかった国々も、労働力人口の減少などによって、移民の受け入れを真剣に考慮せざるを得なくなっている。しかしながらこれらの国々において、労働力としての移民受け入れに関する議論は活発に行われるようになったとはいうものの、移民が抱く受け入れ国に対する認識、そして将来の展望を含む彼女/彼ら自身のライフコースに関する視点は欠如したままである。また、近年の移住労働者の移住形態は、送り出し国から受け入れ国への一方通行なものにとどまらず、現在の受け入れ国からさらなる受け入れ国への継続的な移住も射程に入れた、地理的にも広範囲に及ぶものとなっている。人口変動とともに、移住形態の変化も考慮に入れるべきであり、これまで出稼ぎ労働者としてやってきた人びとが、受け入れ国に定住し次世代を生き育てるというような、一国内だけで完結すると見なされてきた彼女/彼らのライフコースも、再検討されるべきところにきている。このような移住労働者のグローバルな移住経験と彼女/彼らのライフコースとの関係を明らかにすることによって、現代アジアの移民受け入れ国における家族や親密圏の変容に、移民の親密圏獲得と生計戦略としてのグローバル移住がどのように交錯しているのか（いないのか）ということを明らかにしていきたいと考える。長期的な展望としては、移民受け入れ国における移民の社会経済的な有効性という偏狭な議論から脱し、移民送り出し/受け入れ国および移住労働者側から見た親密圏の再構築と、グローバルに展開する移住とのダイナミクスから、現代アジアの親密圏を再定義したいと考える。主に、研究者が過去、韓国、カナダなどで行ってきたフィリピン人移住労働者へのインタビュー、フィリピンでの調査をもとに明らかにしたい。

【研究業績】 学会報告・論文など

【成果の概要】（800字程度）

上記の表題テーマは、今年度はまだ、論文のような具体的な成果として発表できていないものの、研究の重要な手がかりとなりうる二つのテーマを見出すことができた。今後より深め、論文として発表できるよう準備中である：

① 継続的な移住（Onward, Secondary migration）

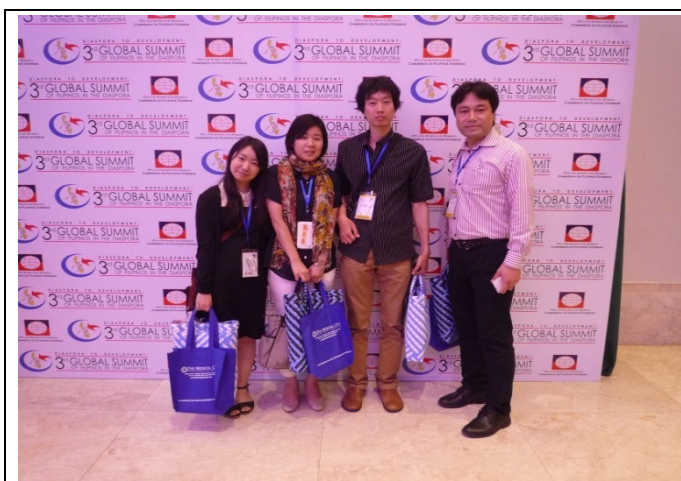
多くのフィリピン人移住労働者が長期かつ複数にわたる国々へのグローバルな移住を経験しているが、同時に様々なライフイベントからなるライフコースも、移住過程のなかに組み込まれながら構築されている。現在の受け入れ国から更なる受け入れ国への継続的な移住は、定住が多く、多くの国々で制限されていることによる移住労働者のグローバルな戦略として位置付けることができる。同時にこれは、移住過程において親密圏を獲得し、ワークライフ・バランスを実現しようとする彼女/彼らの試みでもある。このような複数国への移住の過程で構築されるフィリピン人移住労働者のライフコースを分析することにより、彼女/彼らが描く未来像を明らかにしようとするものである。

継続的な移住に関する専攻研究では、主にEU圏内におけるEU市民権を取得した難民や熟練労働者の経験が大部分を占めてきた。一方で、グローバルな規模でのフィリピン人の継続的な移住は、どのような構造や経緯のなかで進展しているのかということについて、過去、研究者が韓国やカナダで行ったフィリピン人移住労働者へのインタビューをもとに、引き続き整理分析している。

② フィリピンの社会経済開発における主要なアクターとしてのフィリピン海外労働者

近年、経済成長が著しいフィリピンでは、社会経済開発のアクターとして、フィリピン海外労働者を位置付けていこうとする取り組みが国家単位ですすめられている。2月23日から28日までマニラを訪れ、海外フィリピン人委員会（CFO）が行っているフィリピン人移民のための事前オリエンテーションや、同委員会が主催した、世界中の在外フィリピン人リーダーが一堂に会する、グローバル・フィリピーノ・サミット（Global Summit of Filipinos in the Diaspora）に参加した。サミットの大きなテーマが、フィリピンの開発と海外移民をどのように結びつけていくかということであった。移民と開発というテーマは、今までもフィリピンにおいて重要な国家開発戦略に位置付けられてきた。しかしながら、躍進を遂げる経済に伴い、国際的な位相が着実に変化しつつあるフィリピンと海外移住労働者の社会経済的統合において、どのような新たな側面が見られるのかということ、送り出し国フィリピンでの調査を踏まえて、今後詳しく考察していきたい。

【関連資料】



(写真1) 2015年2月25日から27日にかけて海外フィリピン人委員会（CFO）主催で開催された Global Summit of Filipinos in Diaspora に京都大学 KUASU からのメンバーとともに参加。